

安全データシート (SDS)

1. 化学品等及び会社情報

[化学品等の名称]

結晶質シリカ（クリストバライト）(Cristobalite)

[製品コード]

Cri. 21

[推奨用途及び使用上の制限]

クリストバライト分析用標準試料のみ使用できる

[供給者情報]

会 社 名：一般社団法人 日本繊維状物質研究協会

所 在 地：神奈川県厚木市三田 2-10-10

電話番号：046-243-1112

緊急連絡先：046-243-1112

F A X：046-241-5612

メールアドレス：info@jasfm.or.jp

2. 危険有害性の要約

G H S 分類	分類実施日 (物化危険性及び 健康有害性)	H28. 03. 18、政府向け GHS 分類ガイダンス (H25 年度改訂版 (ver1.1)) を使用
	健康に対する有害性	GHS 改訂 4 版を使用
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 1A
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (呼吸器)
	分類実施日 (環境有害性)	H27. 07. 01、政府向け GHS 分類ガイダンス (H25 年度改訂版 (ver1.1)) を使用

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」の記述がある。

G H S ラベル要素

絵表示またはシンボル：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：

- ・遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・発がんのおそれ
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害

注意書き：

安全対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱後はよく手を洗うこと。

- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
- 気分が悪いときは、医師の診断／手当を受けること。

保管

- 施錠して保管すること

廃棄

- 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

- データなし

3. 組成及び成分情報

単一製品、混合物	: 単一製品 結晶質シリカ（クリストバライト）100%
別名	: 二酸化ケイ素、シリカ
分子式（分子量）	: SiO ₂ (60.09)
化審法（官報公示整理番号）	: 1-548
労働安全衛生法通知対象物	: 165-2
P R T R 法	: 非該当
C A S 番号	: 14464-46-1

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

データなし

急性症状及び遅発性症状の
最も重要な徴候症状

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
データなし

応急措置をする者の保護
医師に対する特別な注意事項

5. 火災時の措置

消火剤

周辺火災に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

特有の消火方法

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

消防を行う者の保護

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法
及び機材

飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散
発じんしないようにして、空容器等に回収する。
取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い] 技術的対策

安全取扱い注意事項

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて
保護具を着用する。

使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

粉じんを発生させないようにする。

データなし

データなし

施錠して保管すること。

保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明
及び換気の設備を設ける。直射日光を避け、冷暗所に保管する。

破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

[保管] 安全な保管条件

安全な容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

$$E = 3.0 / (1.19Q + 1)$$

E: 管理濃度 (mg/m³)

Q: 当該粉じんの遊離けい酸含有率 (%)

許容濃度 日本産衛学会
(2018年度版)
ACGIH(2019年版)

0.03 mg/m³

(吸入性結晶質シリカ)

TLV-TWA: 0.025 mg/m³

(結晶性シリカ、 α -クオーツ及びクリストバライト)

設備対策

粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器または局所換気装置を使用する。

保護具 呼吸用保護具

粉じんが発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。

手の保護具

手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。

眼の保護具

眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状

固体 (20°C、1気圧) (GHS判定)

色

乳白色 (GESTIS (2015))

臭い

データなし

臭いのしきい(閾)値

データなし

p H

合成非晶質シリカ (CAS番号:7631-86-9) として :4~9 (SIDS(2006))

融点・凝固点

1,713°C (ICSC (1997))

沸点、初留点及び沸騰範囲

2,230°C (ICSC (1997))

引火点

不燃性 (ICSC (1997))

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

燃焼性(固体、気体)

データなし

燃焼又は爆発範囲

不燃性 (ICSC (1997))

蒸気圧	0 mmHg (20°C) (HSFS (2010))
蒸気密度	データなし
比重(相対密度)	データなし
溶解度	水及び酸に不溶。 (ACGIH (2001))
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	不燃性 (ICSC (1997))
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	高温でも安定な物質。
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性 経口	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
経皮	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
吸入 : ガス	GHS 分類: 分類対象外 GHS の定義における固体である。
吸入 : 蒸気	GHS 分類: 分類対象外 GHS の定義における固体である。
吸入 : 粉じん 及びミスト	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性又は 眼刺激性	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	GHS 分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	GHS 分類: 区分 2 In vivo では、本物質を用いてラットに 13 週間吸入ばく露し肺胞上皮細胞の hprt 遺伝子突然変異を調べた試験で突然変異頻度の有意な増加が認められたとの報告がある (SIDS (2013))。それ以外に in vivo、in vitro のデータはない。以上より、データが限定されるものの、ガイダンスに従い区分 2 とした。なお、本物質の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS (2013)、IARC 100C (2012))。

発がん性

GHS 分類：区分 1A

多くの疫学研究結果において、本物質を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし、異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS (2013))。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C (2012))。

一方、実験動物ではラットに本物質 20 mg/匹を単回胸腔内注射後に生涯観察した結果、投与群では平均生存日数が 597 日で 4 例 (4/32 例) に組織球性悪性リンパ腫が認められたのに対し、対照群では平均生存日数は 717 日で同タイプの腫瘍発生はみられなかった (0/32 例)との報告がある (IARC 68 (1997)、ACGIH (7th, 2006))。

以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質の粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997 年に「グループ 1」に分類し、2012 年の再評価でも分類結果を変更していない (IARC 68 (1997)、IARC 100C (2012))。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が結晶質シリカに対して、「第 1 群」に (産衛学会勧告 (2015))、ACGIH が 2004 年以降、本物質に対し「A2」に (ACGIH (7th, 2006))、NTP が 1991 年以降、結晶質シリカ (吸入性粒子径) に対して、「K」に分類している (NTP RoC (13th, 2014))。よって、本項は区分 1A とした。

GHS 分類：分類できない

データ不足のため分類できない。

GHS 分類：分類できない

データ不足のため分類できない。

GHS 分類：区分 1 (呼吸器)

ヒトにおいて、本物質は石英と同様珪肺症が報告されている。また、実験動物では α -石英に比べてより炎症性で線維形成性があることが報告されている (ACGIH (7th, 2006))。

したがって、区分 1 (呼吸器) とした。

GHS 分類：分類できない

データ不足のため分類できない。

生殖毒性

特定標的臓器毒性
(単回ばく露)

特定標的臓器毒性
(反復ばく露)

吸引性呼吸器有害性

GHS 分類：分類できない

データ不足のため分類できない。

GHS 分類：区分 1 (呼吸器)

ヒトにおいて、本物質は石英と同様珪肺症が報告されている。また、実験動物では α -石英に比べてより炎症性で線維形成性があることが報告されている (ACGIH (7th, 2006))。

したがって、区分 1 (呼吸器) とした。

GHS 分類：分類できない

データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 水生環境有害性
(急性)

GHS 分類：区分外

非晶質シリカを用いて試験されたデータで、甲殻類 (オオミジンコ) の 24 時間 LL50 > 10,000 mg/L、魚類 (ゼブラフィッシュ) の 96 時間 LL0 = 10,000 mg/L (いずれも SIDS, 2013) であることから、区分外とした。

GHS 分類：分類できない

信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急性毒性は区分外であるが、無機化合物であり、急速分解性及び生物蓄積性に関する適切なデータが得られていないことから、分類できないとした。

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

水生環境有害性
(長期間)

オゾン層への有害性

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報と、12項の環境影響情報に基づいて、修正が必要な場合がある。

国際規制

国連番号	-
国連品名	-
国連危険有害性クラス	-
副次危険	-
容器等級	-
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL73/78 附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	該当しない

国内規制

海上規制情報	船舶安全法に従う。
航空規制情報	航空法に従う。
陸上規制情報	消防法、道路法に従う。
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号	-

15. 適用法令

法規制情報は作成年月日時点に基づいて記載されております。事業場において記載するに当たっては、最新情報を確認してください。

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物（法第57条、施行令第18条別表第9） 名称等を通知すべき危険有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9） リスクアセスメントを実施すべき危険有害物（法第57条の3）
じん肺法	法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業
外国為替及び外国貿易管理法	輸出貿易管理令別表第1の16の項

16. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。

[注意] 本 SDS は JIS Z7253:2012 に準拠して作成しています。

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の情報は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありません。